

かつての清平市場のにぎわい
(1998年9月)



レストランの水槽で
売られるゲンゴロウ



調理されて出てきたゲンゴロウ



村の人びとの食事風景

ゲンゴロウ (学名: *Cybister japonicas*)

甲虫目に属する昆虫で、中国・日本・韓国など東アジアに広く生息している。亜科であるゲンゴロウ科に属するものを含めると、世界中で3,000から4,000種が知られている。日本でもかつては池や沼などで数多く見られたが、水質汚染や農薬などの影響で激減し、現在では10種あまりが絶滅危惧種あるいは準絶滅危惧種に指定されている。



(提供:陳 冠成)

「中国では、四つ足のものはテーブル以外、空を飛ぶものは飛行機以外、何でも食べる」という俗諺を聞いたことのある方は多いだろう。さすがにこれは大げさだが、中国で暮らしていると、日本では普通あまり口にしない食材が市場で売られていたり、食卓にあがってくることはたしかに多い。

特に東南部の広東では、「野味」つまり野生動物の肉に代表されるように、多種多様なものを食するというイメージが中国国内でも定着している。広州市内の清平市場では、家禽類や魚介類はもちろん、かつてはイヌやネ「からサソリやヘビやハクビシンにいたるまで、

ところで、「水甲虫」というのは広東での通称で、標準中國語でのゲンゴロウの名称は「龍虱」という。「龍

のシフミ」とはこれまた風流な呼び方だが、知らない者にとっては、「龍のシフミ」を食べてみるかい?」とたずねられても、やはりとまどつてしまつにちがいない。

驚くほどたくさんの生きものが生きたまま売られている。しかし、SARSが猛威をふるつて以来、こうした野生動物の多くは食材として取引する」とが禁じられ、さらに市街地が整備されたこともあいまつて、清平市場の規模はすいぶんと縮小してしまった。現在では漢方薬の材料をあつかう店舗が集積しているくらいで、当時の面影はすっかりなくなっている。

生きものと食べもの

「中国では、四つ足のものはテーブル以外、空を飛ぶものは飛行機以外、何でも食べる」という俗諺を聞いたことのある方は多いだろう。さすがにこれは大げさだが、中国で暮らしていると、日本では普通あまり口にしない食材が市場で売られていたり、食卓にあがつてくることはたしかに多い。

特に東南部の広東では、「野味」つまり野生動物の肉に代表されるように、多種多様なものを食するというイメージが中国国内でも定着している。広州市内の清平市場では、家禽類や魚介類はもちろん、かつてはイヌやネ「からサソリやヘビやハクビシンにいたるまで、

このように市場で目にすることのできる食材の数は減りつつある広東ではあるが、それでもときどきして未知の食べものに出くわすことがある。あるとき村の知り合い、「龍のシフミ」を食べてみるかい?」とたずねられても、やはりとまどつてしまつにちがいない。

食材としてのゲンゴロウ

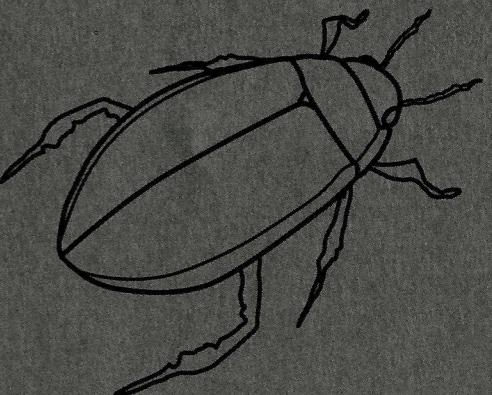
教えてられるままに、まず羽の部分を取りはずしてから、その下の白っぽい身を食べる。少し苦みがある程度で、それほどくせのない味である。

家庭での一般的な調理方法は、生きたものを買つてきて、まず下ゆでしたあと、塩、山椒、八角、桂皮などとともに三分間ほど煮るのだという。腎臓によいとされている、夜尿症の改善に効果があるということだ。

市場では、今オスが五〇〇グラム二〇〇円、メスが二〇〇円ほどで売られている。そのほとんどは食用に養殖されたものである。メスがオスより高いのは、メスの方が栄養価が高いとされているからだという。

生きもの 博物誌

【ゲンゴロウ】
東アジア



「水ゴキブリ」を
食べてみるかい?

川口 幸大
(かわぐち ゆきひろ)

本館機関研究員

人宅に招かれたさい、主人の妻から「んふうにたずねられた。「水甲虫を食べてみるかい?」「ええっ」とわたしは正直驚いた。「甲虫」とは広東の方言で「ゴキブリ」…。「キブリか…。でも水ゴキブリって何のことだろ?」と内心はらはらしながら考えていると、わたしのそのようすを見て主人の妻は笑つて言つた。「いやあ、水ゴキブリって言っても、家のなかにいるゴキブリじゃないよ。あのゴキブリはさすがに食べないけど、これは食べていいんだ。身体にいいんだよ」皿に盛られた出でたものは、全身が茶黒く足にはヒゲのようないのがついていて、一見したところたしかにゴキブリに見えなくもない。しかし、よくよく目をこらすと、胴体には甲羅があってゴキブリより固そうだし、全体的に丸みを帯びたかたちをしている。そうか、これはゲンゴロウだ…。そう。「水甲虫」とはゲンゴロウのことだったのです。